

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(国)406号			
事業毎の通番	18	市町村名	須坂市	箇所名(ふりがな)	村山町(むらやままち)		
事業目的	国道406号の当区間は、須坂市街と菅平を結ぶ路線である。地区住民にとっての重要な生活道路であり、「菅平」や須坂市街の「臥竜公園」、「蔵の街並み」等の観光地を結ぶ観光道路にもなっている。 当該箇所(村山町交差点)は、一般県道村山小布施停車場線及び一般県道村山綿内停車場線の起点であり、須坂市街、須坂長野東インターチェンジ及び小布施スマートインターチェンジへ向かう交通により、特に朝晩の通勤時間帯が混雑し、渋滞が発生している。このため、長野側からの車線の右折レーンを延長することにより、渋滞の解消や交差点内の安全な交通の確保を図るものである。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	須坂都市計画区域マスタープラン、長野都市圏の新たな総合都市交通計画 信州みちビジョン I-(1)(2) 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 28,213台/日(H27交通調査)						
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2022年度(令和4年度)	費用対効果	16.6	国庫	その他	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=150m、W=13.0(27.0)m			25,000		22,500 2,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮 4.72億円 走行経費の減少 0.96億円 渋滞解消、安全性の向上					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流や連携の促進 地域の生活の下支え					
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量：26,859台/日 ○代替道路の有無：安全性の高い代替道路(屋島橋経由)があるが、迂回時間が長い。(約7km増) ○医療・福祉・教育施設との連携：長野県立信州医療センター、長野市民病院とのアクセス道路(1次アクセス) ○交通結節点アクセス：村山駅へのアクセス道路 ○地域の活性化：須坂市中心市街地の活性化に資する				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン、須坂都市計画区域マスタープラン ○緊急輸送路の路線指定：震災対策緊急輸送路(第二次) ○地域指定：積雪地域				評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：16.6 ○事業期間：2年間 ○工法比較検討：迂回について検討あり ○他事業との連携：他事業との連携はない				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数：人or自転車×自動車事故発生 9件(過去5年間で当該交差点半径50m内) ○道路環境改善：渋滞の緩和(ハラハラ箇所)に位置づけ ○歩道整備：整備済 ○現況の車道幅員、半径、勾配：車道幅員6.5m				評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(須坂市、地元区から要望有) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている(須坂市、地元区から要望有) ○住民との協働：今後検討 ○事後・再評価からのフィードバック：事後評価5-1				評価	B
所管課の意見	当区間は、須坂市街と菅平を結ぶ路線で地区住民にとっての重要な生活道路であり、観光地を結ぶ観光道路でもある。特に朝晩の通勤時間帯が混雑し、渋滞が発生している。このため、渋滞の解消や安全な交通の確保を図るためにも事業着手が妥当と判断する。		採択状況	総合評価			
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図、構造図等】	
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	国道406号の当区間は、須坂市街と菅平を結ぶ路線である。地区住民にとっての重要な生活道路であり、「菅平」や須坂市街の「臥竜公園」、「蔵の街並み」等の観光地を結ぶ観光道路にもなっている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所(村山町交差点)は、一般県道村山小布施停車場線及び一般県道村山綿内停車場線の起点であり、須坂市街、須坂長野東インターチェンジ及び小布施スマートインターチェンジへ向かう交通により、特に朝晩の通勤時間帯が混雑し、渋滞が発生している。このため、恒常的な渋滞の解消安全な歩行空間の確保を要望されている。
③事業説明等の経緯	当該区間については、須坂市、地元区から要望があり、早期の事業化が求められている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし。 ただし、(国)406号 村山橋(須坂市・長野市境)から高梨町西交差点までは完成断面で整備済。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	植樹による緑化が実施済。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、付近の商業施設等の活性化も期待される。
⑦その他	コスト削減については設計段階で検討予定。(なお、用地買収もなし)
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 16' 38" 10 東経:E 36° 39' 34" 67

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(主)長野須坂インター線		
事業毎の通番	19	市町村名	須坂市	箇所名(ふりがな)	下八町(しもはっちょう)	
事業目的	主要地方道長野須坂インター線の当区間は、須坂長野東ICと菅平を結ぶ路線である。地区住民にとっての重要な生活道路であり、「菅平」や須坂市街の「臥竜公園」、「蔵の街並み」等の観光地を結ぶ観光道路にもなっている。 当該箇所は、その前後に比べ車道幅員が狭く、歩道も整備されていない状況であり、必要な幅員が整備されていないネック区間となっている。また、須坂市の健康づくりのウォーキングロードにも指定されているが、利用者にとって危険な道路となっている。 そのため、線形を改良するとともに道路を拡幅し、安全な交通の確保を図るものである。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	須坂都市計画区域マスタープラン 信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 3,044台/日(H27交通調査)					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	1.6	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=260m、W=6.0(10.0)m			85,000	76,500 8,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮 1.33億円 走行経費の減少 0.08億円 安全性の向上				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流や連携の促進 地域の生活の下支え				
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 3,044台/日 ○代替道路の有無 : 安全性の高い代替道路があるが、迂回時間が長い。(約4.3km増) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 長野県立信州医療センターとの連携が発揮できる道路(1次アクセス) ○交通結節点アクセス : 須坂長野東ICへの1次アクセス ○地域の活性化 : 須坂市が指定する健康づくりのウォーキングロードの活用など地元活性化に資する			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン、須坂都市計画区域マスタープラン ○緊急輸送路の路線指定 : 避難経路となる路線 ○地域指定 : 積雪地域			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.6 ○事業期間 : 4年間 ○工法比較検討 : 迂回について検討あり ○他事業との連携 : 他事業との連携はない			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 人or自転車×自動車事故発生 なし ○道路環境改善 : 歩行者、自転車利用者等の安全を向上させる ○歩道整備 : 歩道未整備区間への歩道整備 ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 車道幅員5.5m			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(須坂市、地元区から要望有) ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(須坂市、地元区から要望有) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている(須坂市、地元区から要望有) ○住民との協働 : 今後検討 ○事後・再評価からのフィードバック : 事後評価5-1			評価	B
所管課の意見	当該箇所は、須坂長野東ICと菅平を結ぶ路線で地区住民の生活道路であり、観光道路にもなっているが、車道幅員が狭く、歩道も整備されていないため、歩行者等利用者にとって危険な道路となっている。道路改築により安全な交通の確保を図るため、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】	位置図		平面	
事業概要説明図表	現況写真		標準横断面図	
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	国道406号の当区間は、須坂市街と菅平を結ぶ路線である。地区住民にとっての重要な生活道路であり、「菅平」や須坂市街の「臥竜公園」、「蔵の街並み」等の観光地を結ぶ観光道路にもなっている。		
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所は、その前後に比べ車道幅員が狭く、歩道も整備されていない状況であり、必要な幅員が整備されていないネック区間となっている。また、須坂市の健康づくりのウォーキングロードにも指定されているが、利用者にとって危険な道路となっている。このため、歩道の整備を含めた道路改良を要望されている。		
	③事業説明等の経緯	当該区間については、須坂市、地元区から要望があり、早期の事業化が求められている。		
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし。		
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	設計時、自然環境等への影響を軽減する工法を検討する。		
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、観光地へのアクセス道路としての機能が向上するとともに、須坂市が指定する健康づくりのウォーキングロードの活用による活性化も期待される。		
	⑦その他	コスト削減については設計段階で検討予定。		
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 18' 07" 12 東経:E 36° 37' 38" 24

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(主)須坂中野線			
事業毎の通番	20	市町村名	高山村	箇所名(ふりがな)	千本松(せんぼんまつ)		
事業目的	主要地方道須坂中野線の当区間は、須坂市街と高山村中心部を結ぶ路線である。地区住民にとっての重要な生活道路であり、松川渓谷、山田温泉、山田牧場等の観光地を結ぶ観光道路にもなっている。 当該箇所は、歩道を含めた未改良区間であり、前後と比較して一部車道幅員が狭小となっている。また、高山小学校、高山中学校の通学路となっているが、歩道の中抜け区間となっており、路肩も狭い。沿線には病院が3軒あるが、利用者にとって危険な道路となっている。令和2年9月には、死亡事故も発生している。 そのため、歩道整備を含め道路を拡幅し、安全な交通の確保を図るものである。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 7,406台/日(H27交通調査)						
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2023年度(令和5年度)	費用対効果	3.0	国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=120m、W=6.0(9.75)m			70,000		63,000 7,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮 1.87億円 走行経費の減少 0.19億円 安全性の向上					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流や連携の促進 地域の生活の下支え					
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 7,406台/日 ○代替道路の有無 : 安全性の高い代替道路があるが、迂回時間が長い。(約4.4km増) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 長野県立信州医療センター、長野市民病院へのアクセス道路 ○交通結節点アクセス : 須坂駅へのアクセス道路 ○地域の活性化 : 沿線商業施設等の活性化に資する				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 震災対策緊急輸送路(第二次) ○地域指定 : 振興山村、過疎地域、特別豪雪地帯				評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 3.0 ○事業期間 : 3年間 ○工法比較検討 : 迂回について検討あり ○他事業との連携 : 他事業との連携はない				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 人or自転車×自動車事故発生 3件(過去5年間で当該交差点半径50m内) ○道路環境改善 : 歩行者、自転車利用者等の安全を向上させる ○歩道整備 : 歩道未整備区間の歩道整備 ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 車道幅員5.5m				評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(高山村、地元区から要望有) ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(高山村、地元区から要望有) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている(高山村、地元区から要望有) ○住民との協働 : 今後検討 ○事後・再評価からのフィードバック : 事後評価5-1				評価	B
	所管課の意見	本事業区間は地域の主要な生活道路の一部であり交通量も多いが、未改良のため幅員が狭い状況である。また、付近に小・中学校があることから歩行者の安全の確保が必要であり、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

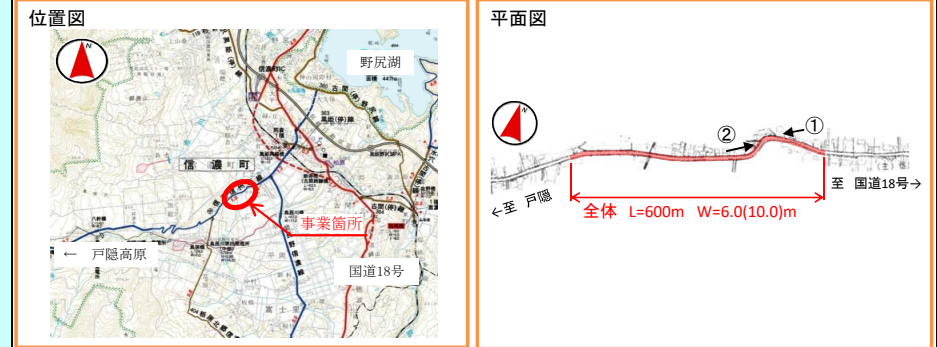
事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
			
			
	令和2年9月 交通死亡事故発生箇所		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	主要地方道須坂中野線の当区間は、須坂市街と高山村中心部を結ぶ路線である。地区住民にとっての重要な生活道路であり、松川渓谷、山田温泉、山田牧場等の観光地を結ぶ観光道路にもなっている。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該箇所は、歩道を含めた未改良区間であり、前後と比較して一部車道幅員が狭小となっている。また、高山小学校、高山中学校の通学路となっているが、歩道の中抜け区間となっており、路肩も狭い。沿線には病院が3軒あるが、利用者にとって危険な道路となっている。令和2年9月には、死亡事故も発生している。このため、歩道整備を含め道路を拡幅を要望されている。	
	③事業説明等の経緯	当該区間については、高山村、地元区から要望があり、早期の事業化が求められている。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし。	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	設計時、自然環境等への影響を軽減する工法を検討する。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、観光地へのアクセス道路としての機能が向上するとともに、付近の商業施設等の活性化も期待される。	
	⑦その他	コスト削減については設計段階で検討予定。	
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 20' 33" 54 東経:E 36° 39' 52" 18

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(主)信濃信州新線		
事業毎の通番	21	市町村名	信濃町	箇所名(ふりがな)	仁之倉(にのくら)	
事業目的	(主)信濃信州新線は特に夏場の観光シーズンを中心に上信越自動車道の信濃町ICを經由し、戸隠高原へ通じる唯一のルートとして利用されている。 しかし、仁之倉集落内の急なS字カーブや狭隘部分がボトルネックとなり、円滑な交通の妨げとなっていることから、道路の改良整備が急務となっている。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な県づくり (生活を支える地域交通の確保)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 2,193台/日					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.6	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=600m、W=6.0(10.0)m			500,000	450,000 50,000	
事業効果	直接的効果 (定量的・定性的)	走行時間の短縮 6.91億円 走行経費の減少 0.24億円 災害に強い道路				
	間接的効果 (定量的・定性的)	地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 2,193台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路があるが、安全性が低い ○医療・福祉・教育施設との連携 : 信越病院、信濃町役場へのアクセス道路 ○交通結節点アクセス : バス路線 ○地域の活性化 : 戸隠高原、野尻湖一茶遺跡、黒姫高原へ通じる道路			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 該当なし ○地域指定 : 積雪地域			評価	B
	効率性	○費用対効果(B/C) 1.6 ○事業期間 : 8年間 ○工法比較検討 : バイパス案・拡幅案比較検討 ○他事業との連携 : 他事業との連携はない			評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 5か年以内の事故なし ○道路環境改善 : カーブ解消 ○歩道整備 : 未整備区間に歩道を整備(冬期・堆雪帯) ○現況の車道幅員 : 最小幅員W=5.0m			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 改築計画(案)の検討時に地域住民が参加 ○事後・再評価からのフィードバック : 事後評価5-1			評価	A
	所管課の意見	(主)信濃信州新線は観光路線として利用されている。しかし、仁之倉集落内の急なS字カーブや狭隘部分がボトルネックとなり、円滑な交通の妨げとなっていることから、道路の改良整備が急務となっているため、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手

【位置図、平面図、構造図等】



事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)信濃信州新線は特に夏場の観光シーズンを中心に上信越自動車道の信濃町ICを經由し、戸隠高原へ通じる唯一のルートとして利用されている。しかし、仁之倉集落内の急なS字カーブや狭隘部分がボトルネックとなり、円滑な交通の妨げとなっていることから、道路の改良整備が急務となっている。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	現地調査での要望(毎年)		
③事業説明等の経緯	関係者を中心に事業説明および合意が得られている。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	周辺の耕地や農業施設に配慮し、影響を最小限にするよう工法選定、設計を行う。		
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により危険箇所の改善が図られ、安全性向上が期待される。		
⑦その他	コスト削減については設計段階で検討予定		
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 11' 21.5" 東経:E 36° 47' 58.05"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(一)栃原北郷信濃線		
事業毎の通番	22	市町村名	飯綱町～信濃町	箇所名(ふりがな)	霊仙寺(れいせんじ)	
事業概要	事業目的	一般県道栃原北郷信濃線信濃町北信地区は長野市飯綱高原から信濃町へ至る路線であり通勤に使われる生活道路でありながら、飯綱山観光周遊路線に指定されている観光路線でもある。道が狭くすれ違いに支障をきたしているため、道路を拡幅して通行車両の安全を確保したい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な県づくり(生活を支える地域交通の確保)	事業実施の根拠法令等	道路法		
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン I-(1)② 拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1,389台/日				
	着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	10年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	2030年度(令和12年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=800m、W=5.5(7.0)m			370,000	333,000 37,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮 7.22億円 走行経費の減少 1.25億円 災害に強い道路			
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進			
	評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 1,389台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路があるが、安全性が低い ○医療・福祉・教育施設との連携 : 該当しない ○交通結節点アクセス : バス路線 ○地域の活性化 : 飯綱高原へ通じる道路			評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 該当なし ○地域指定 : 豪雪地帯指定あり			評価	B
効率性		○費用対効果(B/C) 1.1 ○事業期間 : 10年間 ○工法比較検討 : バイパス案・拡幅案比較検討 ○他事業との連携 : 他事業との連携はない			評価	B
緊急性		○近年の交通事故件数 : 事故発生 3件発生 ○危険箇所対策 : 危険箇所指定はないが安全を向上させる(カーブ解消) ○歩道整備 : 該当なし ○現況の車道幅員 : 最小幅員W=5.0m			評価	B
計画熟度		○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : なし(今後検討) ○事後・再評価からのフィードバック : 事後評価5-1			評価	B
所管課の意見		県道栃原北郷信濃線信濃町北信地区は長野市飯綱高原から信濃町へ至る路線であり通勤に使われる生活道路でありながら、飯綱山観光周遊路線に指定されている観光路線でもある。道が狭くすれ違いに支障をきたしている。安全な交通確保のため、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】	
位置図	
平面図	
事業概要説明図表	
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 当路線は、長野市飯綱高原から信濃町へ至る路線であり通勤に使われる生活道路でありながら、飯綱山観光周遊路線に指定されている観光路線でもある。道が狭くすれ違いに支障をきたしているため、道路を拡幅して通行車両の安全を確保したい。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり 現地調査での要望(毎年)
	③事業説明等の経緯 1工区については、関係者を中心に事業説明および合意が得られている。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連 なし。
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮 周辺に植樹等を検討し、緑化を図る。
	⑥地域活性化への影響と配慮 本事業により危険箇所の改善が図られ、安全性向上が期待される。
	⑦その他 コスト削減については設計段階で検討予定
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138.184146 東経:E 36.755977

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(主)豊野南志賀公園線			
事業毎の通番	23	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	豊野～浅野(とよの～あさの)		
事業目的	(主)豊野南志賀公園線は、長野市豊野と小布施町及び高山村を經由して志賀高原を結ぶ主要幹線道路であり、観光道路としても重要な位置付けをされている路線である。さらに、国道18号と豊野病院、豊野中学校、長野市豊野支所を結ぶ重要な生活道路である。 当該箇所における国道18号との交差点部はカーブ区間となっており、付加車線が未整備であることから朝夕の通勤時間帯を中心に慢性的な渋滞が発生している。また、当該区間は歩道が片側のみで幅員が十分にない状況にある。車道及び歩道を整備することで渋滞解消及び歩行者の安全確保を図りたい。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な県づくり (生活を支える地域交通の確保)		事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	信州みちビジョン						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:2,914台/日						
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.9	国庫	その他	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=0.2km、W=6.0(12.0)m			100,000	90,000	10,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮 1.66億円 走行経費の減少 0.06億円 災害に強い道路(第2次緊急輸送路)					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 2,914台/日 ○代替道路の有無 : 代替道路があるが、安全性が低い ○医療・福祉・教育施設との連携 : 豊野病院、豊野中学校、長野市豊野支所への1次アクセス道路(0.5km) ○交通結節点アクセス : 小布施SICへの1次アクセス ○地域の活性化 : 小布施、高山温泉、志賀高原				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 長野県第2次緊急輸送路に指定 ○地域指定 : 豪雪地帯				評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) 1.9 ○事業期間 : 8年間 ○代替案の検討 : ルート検討 ○他事業との連携 : 他事業との連携はない				評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 事故発生 1件発生 ○道路環境改善 : 付加車線設置による渋滞解消 ○歩道整備 : 歩道はあるが不十分なものを再整備 ○現況の車道幅員 : 最小幅員W=6.0m				評価	C
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 期成同盟会の活発な要望活動 ○地域の合意形成 : 地元役員等関係者中心に合意が図られている ○住民との協働 : 住民独自の取り組みがある ○事後・再評価からのフィードバック : 事後評価5-1				評価	A
	所管課の意見	当該路線は、主要な幹線道路であり、観光道路でもあるが、国道18号との交差点部はカーブ区間となっており、付加車線が未整備であることから慢性的な渋滞が発生している。車道及び歩道を整備することで渋滞解消及び歩行者の安全確保を図るため、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

【位置図、平面図、構造図等】			
			
			
事業概要説明図表			
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 (主)豊野南志賀公園線は、長野市豊野と小布施町及び高山村を經由して志賀高原を結ぶ主要幹線道路であり、観光道路としても重要な位置付けをされている路線である。さらに、国道18号と豊野病院、豊野中学校、長野市豊野支所を結ぶ重要な生活道路である。当該箇所における国道18号との交差点部はカーブ区間となっており、付加車線が未整備であることから朝夕の通勤時間帯を中心に慢性的な渋滞が発生している。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	現地調査での要望(毎年)、期成同盟会の設置		
③事業説明等の経緯	関係者を中心に事業説明および合意が得られている。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	付加車線設置による渋滞解消が期待される。		
⑥地域活性化への影響と配慮	当該区間内には豊野支所及び豊野病院があり、大型のショッピングセンターが近いことから歩行者の往来が多いが、歩道が片側暫定整備のため歩行者などが危険にさらされている。歩道を整備することで歩行者等の安全性向上が期待される。		
⑦その他	コスト削減については設計段階で検討予定		
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 11' 21.5" 東経:E 36° 47' 58.05"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(主)長野戸隠線		
事業毎の通番	24	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	茂菅～入山(もすげ～いりやま)	
事業目的	(主)長野戸隠線は、戸隠高原と長野市を結ぶ主要な道路であり、また住民の生活に欠かすことのできない道路でもあり、バス路線にもなっている。しかしながら、急勾配、急カーブが連続し、見通しも悪いことからすれ違いも困難な箇所も多数あり、安全な通行に支障をきたしている。道路の拡幅改良等により改善し、円滑で安全な交通を確保する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な県づくり(生活を支える地域交通の確保)	事業実施の根拠法令等	道路法			
関連する事業、計画等	信州みちビジョン					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量265台/24h					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2029年度(令和11年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路築造工 L=930m W=5.5(7.0)m			495,000	445,500 49,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 0.42億円 通行の安全性の向上 災害に強い道路				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進 広域観光の促進				
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量：265台/日 ○代替道路の有無：代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○医療・福祉・教育施設との連携：芋井小学校と保育園隣接連携が発揮できる第2次アクセス道路 ○交通節点アクセス：長野市芋井支所と交通節点を結ぶ道路 ○観光振興・地域の活性化：戸隠高原及び飯綱高原へのアクセス道路(10km以内)			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定：長野市避難経路 ○地域指定：信越観光圏整備計画			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：1.0 ○事業期間：9年間 ○工法比較検討：検討あり(コスト縮減検討等) ○他事業との連携：他事業との連携はない			評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数：車両同士の接触事故 3件以上 ○道路環境改善：落石危険箇所あり(H8.9点検箇所、R2.7土砂崩落あり) ○歩道整備：該当しない ○現況の車道幅員、半径、勾配：最小幅員4.5m			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：地元役員、期成同盟会へ周知(毎年の現地調査時に説明) ○地域の取り組み：積極的な取組がある(期成同盟会の活発な要望活動) ○地域の合意形成：合意形成が図られている(地元説明会開催⇒了解済み) ○住民との協働：住民参加型の事業(毎年回数草刈り等、道路愛護活動) ○事後・再評価からのフィードバック：事後評価5-1			評価	A
	所管課の意見	当該路線は、戸隠高原と長野市を結ぶ主要な道路であり、また生活道路でもあり、バス路線にもなっている。しかしながら、急勾配、急カーブが連続し、見通しも悪いことから安全な通行に支障をきたしている。円滑で安全な交通を確保する必要があることから、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

【位置図、平面図、構造図等】	
	
 <p>最小幅員 4.5m</p> <p>至戸隠</p>	 <p>標準横断面</p> <p>W=5.5(7.0)m</p> <p>W=4.5m</p>
事業概要説明図表	
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)長野戸隠線は、戸隠高原と長野市を結ぶ主要な道路であり、またバス路線でもあり、住民の非常に重要な生活道路である。しかしながら、当路線は、急カーブ急勾配が連続し危険である上、幅員も狭小ですれ違いも困難な箇所が多く存在する。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、当路線の中でも最も幅員が狭い箇所の一つであり、すれ違いはもろろん出来ず、見通しも悪いことから出会い頭に立ち往生する場面がある。このことから、期成同盟会からの要望も強く、道路の拡幅と見通しの確保が求められている。
③事業説明等の経緯	当該計画区間約200mの計画の説明は、R1.12月に完了し、また、用地境界立ち合いもR2.6に完了している。その中でも反対意見は無く、早急な改良を求める声が続いている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	設計時、自然環境等への影響を軽減する工法を検討する。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、地域間交流の活性化も期待される。また、大型の観光バスも通行可能になることから、観光への寄与も図られる。
⑦その他	バス路線であり工事の際の全面通行止めが不可能なことから、大型ブロック積みを採用している。
事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 40' 43" 東経:E 138° 7' 21"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(一)曾根麻ノ木線		
事業毎の通番	25	市町村名	飯山市	箇所名(ふりがな)	外椽北(とごまた)	
事業目的	当路線は飯山市街地と戸狩地区を結ぶ生活道路であり、戸狩温泉、戸狩スキー場、なべくら高原等の観光地へ通じる観光路線でもある。沿線には泉台小学校や保育園、デイサービスセンターがあり、本事業により歩行者の安全確保や大型車の円滑な交通の確保をはかるものである。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な県づくり(生活を支える地域交通の確保)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	信越観光圏に位置付け、信州みちビジョン					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	現況自動車交通量:1,871台/12h(H27センサ 外椽北地籍)					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)		
完成年度(見込み)	2023年度(令和5年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工程)	*道路改築工 L=200.0m、W=5.5(10.25)m			80,000	72,000 8,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮 0.84億円 走行経費の減少 0.09億円 災害時における道路ネットワークの確保				
	間接的効果(定量的・定性的)	歩行者の安全確保 通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 :2,536台/日 ○代替道路の有無 : 安全性の高い代替道路がある ○医療・福祉・教育施設との連携 : 泉台小学校へのアクセス道路 ○交通結節点アクセス : 信濃平駅へのアクセス道路 ○地域の活性化 : 飯山市街地、戸狩温泉スキー場へ通じる道路			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 避難経路となる ○地域指定 : 信越観光圏整備計画			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.0 ○事業期間 : 3年間 ○工法比較検討 : ルートについて検討あり ○他事業との連携 : 交通安全対策事業との連携			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 自動車事故発生 1件(H27~R元) ○道路環境改善 : 通勤・通学時の危険解消 ○歩道整備 : 歩道未整備区間の歩道整備 ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 車道幅員5.0m			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 顔戸区の地権者の同意を得る。(H25) ○地域の取り組み : 地元区より積極的な要望活動あり ○地域の合意形成 : 地権者及び関係者の同意あり ○住民との協働 : 住民独自の取り組みがある ○事後・再評価からのフィードバック : 事後評価5-1			評価	A
	所管課の意見	当路線は飯山市街地と戸狩地区を結ぶ生活道路であり、観光路線でもある。沿線には泉台小学校や保育園、デイサービスセンターがあり、本事業により歩行者の安全確保や大型車の円滑な交通の確保をはかる必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

位置図

道路改築工 L=200.0m W=5.5(10.25)m

標準横断面図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は飯山市街地と戸狩地区を結ぶ生活道路であり、戸狩温泉、戸狩スキー場、なべくら高原等の観光地へ通じる観光路線でもある。沿線には泉台小学校や保育園、デイサービスセンターがあり、本事業により歩行者の安全確保や大型車の円滑な交通の確保をはかるものである。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	現道が狭いため地元から道路の拡幅及び歩道設置の要望があった。
③事業説明等の経緯	H25に顔戸区の役員及び地権者に説明会を実施し、事業の了解を得る。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	信越観光圏の圏域内連携強化に資する道路整備である。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	幅員狭小区間の解消と歩道整備により、交通事故発生抑制及び生活環境の安全が確保できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	「信越観光圏」を支える道路ネットワーク整備により、魅力的な観光資源の連携が強化され、観光振興に寄与する。
⑦その他	コスト削減については設計段階で検討予定

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 136° 00' 00" 00 東経:E 36° 00' 00" 00
------------------	-------------------------	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(一)七曲西原線		
事業毎の通番	26	市町村名	木島平村	箇所名(ふりがな)	中島2工区(なかじま)	
事業目的	当路線は、(国)403号から村中心部の集落を通り、観光地である馬曲温泉に至る(一)馬曲木島(停)線に接続する生活道路である。現道は幅員狭小で線形が悪く歩道も未整備であり、大型車のすれ違いも困難であるため、歩行者の安全に支障をきたしている状況である。 近隣には木島平小学校があり、通学路にも指定されていることから地域住民の要望が強く、通過交通の円滑化、沿線住民及び通学生の安全確保のため、早期に改良する必要がある。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 人をひきつける快適な集づくり(生活を支える地域交通の確保)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	信州みちビジョン、信越観光圏に位置付け					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	現況自動車交通量:204台/12h(H27センサ 中島地籍)					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)		
完成年度(見込み)	2023年度(令和5年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=195.0m、W=5.5(9.25)m			100,000	90,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮 1.18億円 走行経費の減少 0.06億円 災害時における道路ネットワークの確保				
	間接的効果(定量的・定性的)	歩行者の安全確保 通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 267台/日 ○代替道路の有無 : 代替路があるが安全性が低い ○医療・福祉・教育施設との連携 : 木島平小学校へのアクセス道路 ○交通結節点アクセス : 木島平村役場を結ぶアクセス道路 ○地域の活性化 : 公共施設馬曲温泉へ通じる道路			評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 避難経路となる路線 ○地域指定 : 信州観光圏			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) 1.0 ○事業期間 : 3年間 ○工法比較検討 : コスト削減の検討あり ○他事業との連携 : 交通安全対策事業との連携			評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 5か年以内の事故なし ○道路環境改善 : 危険箇所指定はないが安全を向上させる ○歩道整備 : 通学路対策 ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 車道幅員5.5m			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 西小路区、中島区の地権者の同意を得る。(H27.8月) ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある ○地域の合意形成 : 地権者及び関係者の同意あり ○住民との協働 : 地元が事業の受け皿として対策委員会を組織 ○事後・再評価からのフィードバック : 事後評価5-1			評価	A
所管課の意見	当路線は、地域の生活道路である。現道は幅員狭小で線形が悪く歩道も未整備であり、大型車のすれ違いも困難で、歩行者の安全に支障をきたしている。近隣には木島平小学校があり、通学路にも指定されていることから早期に改良する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手	

位置図

現況写真

概要図

標準横断面図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	保育園、小学校の統廃合により、H22年度より歩道設置に係わる会合を立ち上げ、地説明会を行った。平成24年度に通学路における児童の交通事故の多発を受け、全国で緊急点検を実施した。緊急点検の結果、ラインの引き直しや側溝のふた掛けを行ってきたが、抜本的な対策として今回の道路改良により歩道設置を行い歩行者の安全確保を行う。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	小学校の統合により当該区間が通学路の指定となり、現道が狭いため保護者等から歩道設置の要望があった。
③事業説明等の経緯	H25.1月に地元西小路区、中島区の役員及び地権者に道路設計説明会を実施。H27.8月に現地立入及び法線の了解を得る。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	信越観光圏の圏域内連携強化に資する道路整備である。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	幅員狭小区間、変形交差点の解消と歩道整備により、交通事故発生抑制及び生活環境の安全が確保できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	「信越観光圏」を支える道路ネットワーク整備により、魅力的な観光資源の連携が強化され、観光振興に寄与する。
⑦その他	コスト削減については設計段階で検討

事後・再評価からのフィードバック	整備のあり方について地元区と検討を重ねている。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 24' 56" 195 東経:E 36° 50' 38" 346
------------------	-------------------------	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	県単道路改築		路河川名等	(-)箕作飯山線		
事業毎の通番	27	市町村名	栄村	箇所名(ふりがな)	箕作~月岡(みつくり~つきおか)	
事業目的	(-)箕作飯山線は、栄村箕作地区を起点に、野沢温泉村を經由して飯山市に至る全長L=18.1kmの県道であり、地域の重要な生活道路であるとともに、(国)117号の代替機能を有する道路であるが、栄村箕作地区の集落内は幅員が狭く、豪雪地帯でもあり車両の通行に支障をきたしている。 令和元年の台風19号を受けて当該地域で計画されている災害復旧助成事業による堤防整備とあわせて、生活道路の一部となっている当該区間を迂回するバイパスを整備することにより、円滑で安全な交通の確保を図りたい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	信州みちビジョン					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益対象:計画交通量600台/日					
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	0.7	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	*道路改築工 L=500.0m、W=5.5(8.0)m			250,000	225,000 25,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮 1.47億円 走行経費の減少 0.09億円 災害に強い道路				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進 歩行者の安全の確保				
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 600台/日 ○代替道路の有無 : 安全性の高い代替道路がある((-)長瀬横倉(停)線) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 栄小学校への2次アクセス道路 ○交通結節点アクセス : JR飯山線横倉駅への2次アクセス道路 ○地域の活性化 : 千曲川沿線へ通じる道路			評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定 : 避難経路 ○地域指定 : 振興山村、過疎地域、特別豪雪地帯			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 0.7 ○事業期間 : 5年間 ○工法比較検討 : 検討なし ○他事業との連携 : 河川災害復旧助成事業、社会資本整備総合交付金(広域連携)事業			評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 交通事故件数の該当はなし ○道路環境改善 : 危険箇所指定はないが安全を向上させる(集落内の騒音・振動が緩和する) ○歩道整備 : 通学路対策 ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 車道幅員5.0m			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(R2.10.13事業説明会を開催) ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民独自の取り組みがある(地元が対策委員会を組織) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:再評価5-10 関連事業との調整			評価	A
	所管課の意見	当該路線は、生活道路であるとともに、(国)117号の代替道路であるが、集落内は幅員が狭く、車両の通行に支障をきたしている。令和元年の台風19号を受けて、災害復旧助成事業による堤防整備とあわせて、バイパスを整備する必要があることから、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手	

位置図

現況写真

標準横断面図

概要図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(-)箕作飯山線は、栄村箕作地区を起点に、野沢温泉村を經由して飯山市に至る全長L=18.1kmの県道であり、地域の重要な生活道路であるとともに、(国)117号の代替機能を有する道路である。当該区間に隣接する箕作~明石工区のL=2.0kmが令和2年11月に全線開通し、新たな交流と沿道利用による地域資源を活かした産業の活性化が期待されている路線である。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、箕作地区内を通過するが幅員狭小で歩道が未設置のため、円滑で安全な交通の支障となっていることから、安全で円滑な交通の確保を要望されている。
③事業説明等の経緯	R2.10月に事業説明を実施している。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	河川災害復旧助成事業、社会資本整備総合交付金(広域連携)事業
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	法面緑化を図るなど自然環境へ配慮する
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、当該地区の活性化も期待される。
⑦その他	盛土材として、他工区の残土を有効活用

事後・再評価からのフィードバック

事後・再評価からのフィードバック	道路整備と水害対策を合せて計画している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 136° 32' 46" 76 東経:E 36° 58' 48" 74
------------------	----------------------	-------------	---